

## ジンコソーラー大面積N型単結晶シリコン太陽電池変換効率

### 24.79%に達し、世界記録を破る

2020年7月20日、日本初の年間出荷量がGWを超えた太陽光発電会社ジンコソーラー（NYSE: JKS）は、大面積N型単結晶シリコン太陽電池の変換効率は24.79%に達し、トップコン（TunnelOxidePassivatedContact, TOPCon）技術によって、変換効率が世界記録を更新したと発表した。同テスト結果は、ドイツの独・ハーメルン太陽エネルギー研究所（ISFH）による試験および認証を取得したという。

ジンコソーラー研究開発チームはシリコン、太陽電池、モジュールなどの分野の専門家を集め、高効率と高出力の太陽電池とモジュール開発の面で何度も重大な突破を遂げた。今回変換効率24.79%を記録した同太陽電池は、大面積（ $267.72 \text{ cm}^2$ ）のN型単結晶シリコンを採用し、トップコン（TOPCon）技術などの革新的な技術によって、効率の大幅な向上を実現した。同技術が徐々に生産に応用されるという。

ジンコソーラー最高技術責任者の金浩は、「今回ジンコソーラーは世界最先端のトップコン（TOPCon）技術にて、N型単結晶シリコン太陽電池の効率を更新し、世界記録を達成しまして、誇りを感じます。

弊社は技術アップグレードと量産実現の加速を引き続き行い、世界のお客様に高効率で競争力のある製品を提供し続けます。」と述べた。